



〈雑録〉南部伊太利ヨリノ移住及其ノ變動ノ原因(2)

中島, 九郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(2):261*-274

(Issue Date)

1911-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051759>



南部伊太利ヨリノ移住
及其ノ變動ノ原因 (其二)

農學士 中島九郎

ブラジル及アルゼンチンハ北米合衆國ニ對シ

經濟的發達ノ大體ニ於テ下位ニ居ルモノナリ然レドモ尙一事ノ彼ニ勝レルモノハ即チ此等ノ兩國ニ於テハ移住希望者ニ向テ廣大ニシテ且ツ廉價ナル土地ヲ有スルニ在リ隨テ歐洲ヨリノ移住ヲ誘引スル力ニ於テハ北米ニ及バズト雖モ尙ホ少クトモ此地ニ政治上ノ異變ナキ限りハ永久の殖民者ヲ得ルコトニ於テハ特別ノ勢力ヲ有スルモノナリ。

最近二十年以來南部伊太利ヨリ移住ノ増加セルハコレ全ク新世界ニ於ケル勞力ノ需要が増大セル結果ニシテコノ需要ハ前述ノ有效ナル通信ノ媒介ニ依テ南伊ノ全部ニ知レ渡レリ然ルニ南部伊太利ニ於テハ經濟上此等ノ誘引力ニ對抗スル實力ヲ有セズシテ遂ニ此等諸外國ニ於ケル世界經濟ノ優越ナルヲ認メテ之ニ屈服スルノ止ムナキニ至レリ。

若シ經濟上伊太利ハ受働的ニシテ米國ハ他働的ナリトスル觀察ニシテ正シキ時ハ少クトモ大

體ニ於テハ之ニ依テ移住増減ノ現象ヲ説明スルコトヲ得ベシ即勞力ノ需要ニシテ減少スル時ハ移住者ノ數ヲ減少シ其需要増加スル時ハ移住ヲ促進セシムベキナリ。今最近二十年間ニ於ケル移民ノ趨勢ヲ窺フニ次ノ如シ。

南部伊太利、シ、リー及サルヂニア
ヨリ米國ヘノ移民數

年次	アルゼンチン	ブラジル	北米合衆國及加奈太	米國全體	移民總數
一八八八年	一九三七	九四八〇	三〇七七	六三三二	六八九〇〇
一八八九年	二三三九	四七三四	三三〇四	二五七五	五九四〇四
一八九〇年	二二四六	四六六一	四二九三	六五五九	七二八六一
一八九一年	九六三三	二〇一八	三九七九	六三三三	七四一八三
一八九二年	六六〇〇	六五二一	三六二五	五四九〇	六三三九五
一八九三年	二二五九	二〇六三〇	四三六六	八三四六	九二四九八
一八九四年	一〇九三三	二六四八	二八三六	五三五六	六二八九〇
一八九五年	一六四三七	二五七四七	三三九四四	八七〇七〇	九五六三三
一八九六年	三三七七	三〇四〇一	四七九〇九	一〇九三二	一一五四七
一八九七年	二六〇三	二七七五	四二九〇	八七一六	九四四二〇
一八九八年	一五六三〇	一八九七	四九四八二	九〇〇七五	九四四三七

一八九九年	三三五五五	一五九〇〇	五五九二二	九八一六五	一〇六八八二
一九〇〇年	一九九四六	一九三九〇	八〇三九〇	二七四八八	一四一四九三
一九〇一年	三三二二六	五七六四二	一〇七三〇七	二〇八七四四	二四〇一九八
一九〇二年	二〇四六五	三〇五二〇	二六七五四九	三三三九二	二二六八八〇
一九〇三年	一八七六七	二〇九二四	一六五四四三	三二一四四九	二四二二三二
一九〇四年	二〇一〇七	二二四二九	一五九九〇九	一六八二七六	一九四四三
一九〇五年	一四七九二	一六六七四	三六〇七九三	三三三〇七三	三三三九〇三
一九〇六年	五五六四五	一六九四五	二八六〇四〇	三三三三〇三	三九一〇二〇
一九〇七年	四四九五七	一三二五三	三三四〇三二	二九五一九五	三七九〇〇

此表ヲ見ル時ハ南部伊太利ヨリノ移民ハ主ト

シテ米國ニ向フヲ知ルベシ一八八八一八九五
年ノ間ニ於テハ米國以外ニ向ヘル移民ハ總數ノ
十分ノ一乃至十一分ノ一ヲ占メタリシニ一八九
五―一九〇七年間ニ至リテハ其割合一層減少セ
リソノ中一九〇二―一九〇七年間ニ於テハ二十
分ノ一、八分ノ一、六分ノ一、九分ノ一、十四
分ノ一、十分ノ一トイフガ如ク年ニヨリ高低ノ
差甚シク之ヲ平均スレバ再ビ殆ド十分ノ一トナ
ル。

米國以外ニ赴ク移民ハ歐洲及地中海ニ沿ヘル
歐洲以外ノ國ニ向フモノニシテ其大部分ハ一時
的出稼人ヨリ成リ彼等ハ數箇月間外國ニ於テ勞
働ニ服セル後再ビ歸國スルモノナリ彼等ノ絶對
數ハ一九〇三年以來始メテ幾分カ高キ數字ヲ示
スニ至レルモノニシテ之ハ全ク移住先ニ於ケル
經濟上ノ大發展ニ依ルモノトス。

米國ニ於テハ此表ノ示スガ如ク最モ主要ナル
移住先ハ北米合衆國、アルゼンチン及ブラジル
ナリ而シテ同時ニ北米合衆國ハ益々重要ナル位
置ヲ占ムルニ反シアルゼンチン及ブラジルハ益
益退歩スルヲ見ルベシ例バ一八八八年ニハ北米
合衆國ハ始メテ移民總數ノ半バヲ占メタリシニ
一九〇〇年ニハ三分ノ二、一九〇六年ニハ殆ド
四分ノ三ニ達セリコノ進歩ハ絶對數ヲ比較スル
時ニ於テ更ニ一層驚クベキモノアリ。

一八八八―九二年 一九〇三―〇七年
北米合衆國 三五千人 二一六千人

アルセンチン

一四

三六

ブラジル

七

一六

北米合衆國ニ於ケル一般經濟上ノ狀態ガ如何ニ移民ニ對シテ影響スル所強カリシカハ各年ニ就テ之ヲ研究スルコト難カラズ。

一八八八年ハ北米合衆國ニ於テ商工業ノ振ハザリシニ加ヘ農作物不作ナリシカバ經濟的活動ヲ遲緩ナラシメ從テ伊太利ヨリノ移民モ一八八七年ニ比スレバ減少セシガ更ニ一八八九年ニ至テハ尙一層減少ヲ來セリ然ルニ次ノ二年間ハ一部歐洲ノ購買力ノ上進セル反影トシテ北米合衆國ニ於ケル景氣ハ幾分回復シ從テ南部伊太利ヨリノ移民數ハ四三、四〇、三六、四三千人(伊太利全國ニ對シテハ四七・九 四四・三 四二・九 四九・七千人)ニ増加セリ次デ一八九三年ノ米國ノ恐慌及二年間ノ不景氣ニ襲ハル、ヤ之ト共ニ移民ノ數モ亦二八及三四千人ニ減少セリ(伊太利全國ニ對シテハ三一・六及三七・八千人)、然ル

ニ經濟界ノ不況ハ二年後ニ於テ改マリ忽チ一般ニ非常ナル好景氣ヲ呈シ始メ爾來コノ盛況ハ一九〇二年ニ至ル迄繼續セリ而シテコノ好況ニ伴ヒテ事業ノ擴張セラル、ト共ニ移民ノ數モ亦俄ニ増加シテコノ間ニ四八〇〇〇人ヨリ一六八〇〇〇人ニ進メリ(伊太利全國ニ對シテハ五三・四ヨリ一九三・七千人)一九〇三年及一九〇四年ハ事業ノ緊縮セル結果移民モ亦一六五及一三六千人(一九七・八及一六八・七千人)ニ減少セリ次デ二六一及二八六千人ト云フ空前ノ巨數ニ上レルハ之レ新ニ米國ノ經濟的生活ガ一般ニ甚ダ旺盛トナリシ結果ナルガコノ好景氣モ一九〇七年ノ秋ニ於テ非常ニ猛烈ナル逆襲ヲ蒙レルコトハ吾人ノ腦裏ニ尙ホ新ナル所ナリ其結果此年ノ秋ニ於テ移民ハ既ニ著シク減少ヲ來シ從テ全年ノ移民數ハ二三四千人ニ下レリ一九〇八年ハ甚シキ不景氣ニ陷レル爲メ伊太利全國ノ移民數ハ前年ニハ尙二八九・一千人ヲ數ヘタルモノ此年ニ至

テハ俄ニ一三一・五千人ニ減少セリ。

アルゼンチン及ブラジルガ伊太利ヨリノ移住ニ作用スル有様ハ北米合衆國ト同ジカラズ合衆國ニ於テハ一八六五年以來政治上ニ於テ平和ヲ保テリ一八九八年キユーバ及フキリツピンニ起レル短キ戰爭ハ何等政治的動搖ヲ惹起セザリキ而シテ例バ大統領ノ選舉ノ如キ場合ニ内部ノ政黨ノ爭ハ實際其時ノ經濟政策ニ對シテ危難ヲ及セリト雖之ハ常ニ唯一時的ノモノニ過ギザリシナリ。事業及金錢ハ國民的生活ノ基礎ヲナシテ其勢力極メテ強シ是ヲ以テ見ル時ハ彼ノ動キ易キ移民ヲ誘致シ或ハ之ヲ拒絶スルコトガ一般經濟界ノ振否ト極メテ密接ナル關係ヲ有スルモノナルコトヲ了解スベシ。然ルニ南米ニ於テハ其經濟生活ハ北米ニ於ケルガ如ク妨害ヲ受クルコトナクシテ能ク自國ノ資本力ニ依テ發達スルモノニ非ズ從テ將來ノ景氣或ハ其繼續期間ヲ豫察スルコトハ極メテ難シ何トナレバ第一ニアルゼ

ンチン及ブラジルニ於ケル國民經濟ハ工業的ニモ又資本的ニモ北米ニ於ケルガ如クニ發達セズシテ自國ニ於テ生産セル過剰ノ農產物ノ得意先タル外國ノ狀態ニ依テ左右セラル、コト多シ第二ニ國內ノ政治上ノ安全ガ保證セラレザルニ依ル即チ革命及武力ニ訴フル政黨ノ爭ガ總テノ社會的感覚ト活動ヲ妨ゲ經濟的發達ニ打擊ヲ加ヘテ商人ノ計算ト新企業ニ對シテ不安ノ念ヲ與フルモノナリ移住者ニ向テ利益ノ獲得ハ往々全ク僥倖ニ屬シ僅々三週間ノ航海中ニ既ニ變化ヲ起スコトアリ之ニ依テ前途ノ合衆國ガ盛ニ南部伊太利人ヲ吸收スルノ事實ヲ説明スルコトヲ得ベシ即チ合衆國ニ於テハ能ク移住ニ伴フ所ノ彼の偶然的ノ原因ハ甚ダ少クシテ單ニ純粹ナル經濟的ノ一點ニ限ラル、モ南米ニ於テハ政治上不安全ニシテ爲ニ彼ノ若干ノ貯金ヲ得レバ其多クハ直チニ歸國セントスル南部伊太利人ノ如ク速ニ安全ナル金錢ノ所得ヲ望ム者ヲシテ益々危懼ノ

念ヲ抱カシムルモノナリ。

伊太利ノ中ニテ北部伊太利人ハ南米ヘ南部伊太利人ハ北米ヘ向フノ現象ヲ見ル今一八八八年以來各期ニ於ケル關係ヲ見ルニ次ノ如シ。

伊太利ヨリ北 南部伊太利ヨリ北米合衆國ヘノ平均一年ノ移民數 (前二者ノ差)

一八八一—一八九三年	四〇、五六	三三、六九	四六、六九
一八九四—一九〇三年	六八、八〇	六八、〇九	一〇、六八
一九〇三—一九〇七年	二六、三七	二六、四三	五、一五

此表ニ依ル時ハ永キ間北部伊太利人ノ北米ヘノ移住ガ少ナカリシコト、サレド尙最後ノ期間ニ於テハ著シク増加セルノ事實ヲ見ルベシ即伊太利全體ニ於テハ僅ニ六倍セルニ當リテ北部伊太利ニ於テハ十倍以上ニ達セリ斯ノ如ク移民ノ増加セル原因ハ北部伊太利ニ於テモ亦前述ノ移住ニ關スル個人的ノ傳播ガ其效ヲ奏セルト又一方ニハ南米ニ於ケル職業ノ狀態ハ從來不安全ナリシニ對シ北米ノ比較的有望ナルコトヲ悟レル

ニ在リサレド絶對數ヲ以テ示ス時ハ北部伊太利ハ尙ホ甚ダ南部伊太利ニ劣ルヲ見ルベシ。更ニ南米ニ於ケル重要ナル二國ニ就テ其關係ヲ見ルニ次ノ如シ。

伊太利南部伊太利ヨリア	ラジルラジルヘノ平均一年ノ移民數	前二者ノ差	伊太利南部伊太利ヨリア	ラジルラジルヘノ平均一年ノ移民數	前二者ノ差
一八八一—一八九三年	五、五二	九、四四	四、〇六	一、三六	二、六八
一八九四—一九〇三年	五、九二	二、四三	三、〇五	四、三九	一、三六
一九〇三—一九〇七年	二、三三	一、五八	九、五六	七、五二	二、〇四

此表ニ依レバブラジルヘノ移民ハ前二期ニ於テハ北部伊太利ヨリスルモノ多數ヲ占メシガ第三期ニ至テハ南部伊太利ガ勝ヲ制セリ、アルゼンチンニ向テハ三期共ニ北部伊太利ヨリノ移民ガ多數ヲ占メタリト雖第三期ニ至テハ殆ド南部伊太利ニ追及セラレントス而シテ兩者孰レモ一般ニ南部伊太利ヨリノ移民ノ増加ノ盛ナルコト

ヲ示スモノナリ。

今本論文ノ冒頭ニ掲ゲタル第一表ニ從テIXトXトヲ互ニ比較スル時ハ如何ニ一八八八年ヨリ一九〇〇年ニ至ル間ハ北部伊太利ヨリノ移住ガ南部伊太利ノ其ニ超越セルカ又爾來如何ニ後者ガ前者ニ接近スルニ至ルカヲ見ルベシ。一九〇一年及一九〇七年ノ間ハ平均北部伊太利ヨリノ移民ノ約三分ノ一ハ北米合衆國、アルゼンチン及ブラジルヘ向ヘルガ其以前ニ於テハ其割合小ナリキ而シテ新世界ニ赴カザル移民ノ大部分ハ歐洲及地中海沿岸ノ諸國ヘ向フモノニシテ其多クハ漂泊勞働者ヨリ成リ五箇月乃至八箇月間トイフガ如ク一定時期ノ間出稼ヲナスモノナリ。

今日北部伊太利ヨリノ移民ノ中ニハアルゼンチン及北米合衆國ヘ赴ク所ノ漂泊勞働者ヲモ含ムト雖渡海者ノ大部分ハ外國ニ定住シテ土地ノ所有權ヲ獲得セント欲スル所ノ移住者ニ屬スルモノナリ然リ而シテコノ目的ニ向テハ南部ブラジ

ル及特ニアルゼンチンニ在テハ最近二十年間ニ於テ合衆國ニ於ケルヨリモ一層多クノ且ツ一層低廉ナル機會ヲ與フルモノナリ是ヲ以テ外國ニ於テ數箇月間ノ勞働ヲ求ムル者ハ殆ド總テ歐洲諸國ヘ赴キ殖民者トシテ土地ヲ獲得セント欲スル者ハ南米ヘ渡航スルノ狀況ナリキ。

然レドモ實際ニ於テハ初志ト相反スルコトアルハ屢々目撃スル所ナリ例バ一時的の出稼人ニテモ若シ外國ガ多望ナルカ或ハ歸國旅費ヲ辨ゼザル時ハ彼地ニ留ルガ如キ或ハ又所謂定着の移住者ト雖彼地ニ於テ目的ヲ達スルコト能ハザルノ故ヲ以テ常ニ少ナカラザル歸國者ヲ見ルガ如キハ即之ナリ。

然レドモ北部及南部伊太利ヨリノ海外移住ニ於テ兩地住民ノ特質ヲ窺ヒ得ベキガ如シ北部伊太利人ハ彼ノ獨立獨歩ノ精神ニ富ミ天下ヲ家トナシテ敢テ故國ニ戀々タラザル英獨人及スカンデナヴィア人ニ類似スルモノアリ南伊太利人ハ

一般ヨリ云ヘバ斯ノ如キ性質ヲ有セズシテ群居ヲ好ミ家國ヲ離ル、ヲ欲セズ隨テ北部伊太利人ハ移民ノ先驅者ニシテ一八七六年ニ於テモ南部伊太利人ノ移民數ハ尙僅ニ北部伊太利人ノ其ノ十五分ノ一ニ過ギザリシコトヲ注意セザル可ラズ然ルニ爾來急速ナル増加ヲ起セルハ之レ各個人ノ意思ヲ翻スニ足ル程強大ナル集合の本能ノ存在ヲ證スルモノナリ。

移住希望ノ伊太利人ヲ各人ノ動機ヨリ見テ次ノ如ク區別スルヲ得ベシ。

一、以前ヨリ自ラ外國ニ於テ定住セントスル意見ヲ有スル者

二、不時ニ移住ヲ思ヒ立ツ者

三、一定時期ヲ限リテ出稼スル者即チ本來ノ漂泊労働者之ナリ第一類ニ屬スルモノハ特ニ意思ノ堅固ナル人ニシテ第二及第三類ニ屬スル者ハ冒險的氣象ニ乏シクシテ未ダ母國ト關係ヲ絶チ得ザル人ナリ即チ試験的ニ或ハ一時的ニ労働

場所ヲ他國ニ求ムルモノニシテ若シ彼地ニ於ケル經驗ガ好結果ヲ奏スル時ハ屢々之ヲ繰返シ或ハ若シ安全ニ定住スルノ望ミ充分ナル時ハ遂ニハ永久ニ其國ニ留マルニ至ル。定住ハ往々偶然ノ結果ニ出ルコトアリテ必ズシモ常ニ個人的性質ニ左右セラル、モノニハアラズ。

今吾人ガゴノ觀察點ヨリ北部伊太利ト南部伊太利トヲ比較スルニ前者ニ於テハ第一類ニ屬スルモノアリテ從テ南米ヘノ移住者ヲ出シ又第二類以下ニ屬スルモノアリテ從テ一時的出稼人ヲ生ズルモノナリ然ルニ後者ニ於テハ之ニ反シ第一類ノ移民ハ少ク其大部分ハ再ビ歸國スルノ考ヲ以テ移住スルモノニシテ唯バシリカタノ如キ地方ヨリ出ス移住者ニ於テ之ガ例外ヲ見ルニ過ギズ南部伊太利ニ於テハ歐洲諸國ヘ向ケ數箇月期限ノ出稼人ハ北部伊太利ニ於ケルヨリモ其數遙ニ少シ然レドモ一九〇一年以降其數ヲ増加セリサレド爾來一九〇七年ニ至ル迄殆ド同一ノ高

サヲ保テリ。

南部伊太利人が不定ノ時期ニ移住スル原因ハ先ヅ米國ヘノ旅行ハ彼等ノ最モ喜ブ所ニシテ且ツ定期ノ勞働ニ依テ得ル所ノ收入ハ未ダ彼等ノ故國ニ於ケル狀態ヲ根本的ニ改善スルニ足ラザルト又カンバナ、カラブリア及シ、リノー如キ地方ニ向テハネーブルスヨリ新世界ヘ赴ク方ガ細長ナル半島ヲ汽車ニテ通過シテ「アルプス」ヲ超ユルヨリモ費用ヲ要スルコト少キニ依ルモノナリ唯アプリアモリゼ及サルヂニアニ對シテハ埃甸國或ハ佛國ヘ向フヲ以テ地理上有利ナリトス南部伊太利ヨリアルゼンチン及ブラジルヘノ移民ノ増減ヲ前表ニ依テ見ル時ハコノ變動ハ決シテ北米合衆國ヘノ移民ノ増減トハ平行セザルコトヲ知ラン。

一八八七—一八八八年ニ於テアルゼンチンノ事業界ハ好況ヲ呈セリ一八八〇年以來政治上靜穩ニシテ農業ハ急速ナル發展ヲ遂ゲタレドモ到

ル處充分ナル勞力ト植民者ノ缺乏トニ苦メリ之ニ對スル需要ノ盛ナルコトハ逐年増加スル伊太利ノ移民ニ依テ之ヲ知ルヲ得ベシ即チ次ノ如シ

伊太利ヨリアルゼンチンヘノ移民

一八〇年	11,000	一八〇一年	一五,六九
一八二二年	三三,九七	一八三三年	二四,二七
一八四四年	三三,九七	一八五五年	三七,七〇
一八六六年	三六,五〇	一八七七年	五二,九三
一八八八年	六四,三六	一八九九年	六〇,〇八

尙ホ一八八七年以來移住ガ容易トナレル一原因ハアルゼンチン政府ガ特ニ移民ニ對シテ旅費ヲ立換ヘ彼等ニ對シブエノスアイレスニ於テ五日間ノ無料宿泊ヲ許シ又内地ノ汽車賃ヲ免ジテ以テ厚ク之ヲ待遇セルニ在リ。然レドモ一八九〇年ハ經濟界竝ニ政治界ニ於テ非常ナル急變ヲ惹起セリコノ不良ナル狀態ハ其後モ繼續シテ更ニ政治上ノ不安ト食料品ノ騰貴ガ加ハレリ其結果伊太利ノ一時的出稼人及植民者ガコノ國ニ來ルモノ漸ク減少セルハ左表ノ示スガ如シ。

伊太利ヨリアルセ
ンチンヘノ移民

南部伊太利ヨリアル
センチンヘノ移民

一八九〇年 一六、九五

二、四七

一八九一年 二四、二五

九、六五

一八九二年 二五、三二

六、〇〇

一八九三年 三三、五四

三、五九

一八九四年 三三、五七

一、〇三

國內ノ政治的不安ハ其後一九〇三年ニ至ル迄
除カレズ多年國民ヲ怖レシメタル智利國トノ開
戰ノ危險ハ一層不安ノ度ヲ増サシメタリ而シテ
經濟上ニ於テハ發達ヲ來セリト雖其發達トイフ
モ確固タラズ又平均ヲ保タザリキ。

一八九五年 四〇、〇元 一六、四七

一八九六年 五、〇六 二、三九七

一八九七年 三、七二 一六、〇七

一八九八年 三、九六 一、五六三

一八九九年 四、二六 三、五五

一九〇〇年 四、〇三 一、九四四

一九〇一年 五、八一 三、二六

一九〇三年 三、七六 二、四四五

一八九五年及一八九六年ノ經濟界ハ前ノ四年
ヨリモ好況ヲ呈セリ然ルニ一八九七年ニハ不作
ト共ニ不動產抵當銀行及多クノ商店ノ支拂停止
ヲ現出スルニ至レリ凡テ此等ノ結果ハ翌年ニ於

テ始メテ強ク現ハレタリ一八九九年一九〇〇年
及一九〇一年ハ共ニ政治上平穩ヲ保チ且ツ豐作
ノ結果輸出ヲ増加シテ一般ノ景氣ヲ進メタリ而
シテ一九〇一年ニ入テ移民ガ劇増セル所以ハ此
年ヲ以テ伊太利ノ移民法ガ發布セラレタルニ在
リ一九〇二年ハ旱魃ニシテ遂ニ凶作ニ逢ヒ經濟
界ハ新ニ不安ノ狀態ニ陷レリ一九〇一年ノ秋ノ
商業恐慌ハ其翌年ニ一般ノ不景氣ヲ惹起セリ然
ルニ其後豐作打續キ之ト共ニ伊太利ヨリノ移民
ノ數モ亦増加セルコト次ノ如シ。

一九〇三年 四、九二五 一八、七九

一九〇五年 八、一五 四、九二

一九〇七年 六、四三 四、九七

一九〇八年 一、八八 八、〇九

一九〇一年ノ恐慌ハ既ニ去リ智利トノ和睦ハ一
般ノ平和ヲ招キ國內ニ於ケル秩序ハ確立シ鐵道
ハ擴張シ銀行事業ハ整頓シ財政狀態ハ改善セラ
レタリ之ニ加フルニ一九〇四年一九〇五年及一
九〇六年ノ三年ハ非常ナル豐作ニシテ歐洲ハ再
ビ多額ノ資本ヲ準備シテ同時ニ農產物ノ華客ト

ナリ又工業品ノ販賣者トナレリ一九〇七年ニハ
 プエノスアイレスニ於ケル取引所ノ騷擾アリテ
 一般ノ好景氣ニ對シテ少シク打撃ヲ加ヘタリ然
 レドモ一般ニハ地方農村ノ急速ナル發展ヲ認ム
 ルコトヲ得ベシ隨テ伊太利ヨリノ移民ハコノ最
 後ノ期間ニ於テ前期ニ比シ約二倍ノ數ニ達セリ
 伊太利ヨリブルジルヘノ移民ハ一八八五年以
 前ハ未ダ著シカラザリキ然ルニ此年以來ブラジ
 ル政府ハ大費ヲ投ジテ歐洲ヨリ移民ヲ招致シ旅
 費ノ一部或ハ全部ヲ免ジ又移民會社ノ設立ヲ見
 ルニ至レリ。一八八六年ニハ一一、三三四人一
 八八七年ニハ三一、四四五人一八八八年ニハ九
 七、七三〇人ノ伊太利人ガブラジルノ港ニ上陸
 セリ。一八八八年五月十三日ニ奴隸ハ斷然解放
 セラレテ帝國ハ轉覆シブラジルハ伊太利ニ對シ
 テハ自由ナル共和國トシテ現ハル、ニ至レリ而
 シテ政治的秩序ト花々シキ經濟的發展トハコノ
 國ノ將來ニ關シテ期待セラル、所ナリコノ評判

ト低廉ナル運賃ニ誘ハレテ移民ハ陸續トシテコ
 ノ國ニ集來セルガ其中ニ南部伊太利ヨリノ移民
 ハ九四八〇人ヲ數ヘタリ然レドモ間モナク逆襲
 ニ遭遇セリ統計ノ示ス所左ノ如シ。

伊太利ヨ リブラジ ルヘノ移 民	南部伊太 利ヨリ ブラジ ルヘノ移 民	伊太利ヨ リブラジ ルヘノ移 民	南部伊太 利ヨリ ブラジ ルヘノ移 民
一八八六年	九七、七三〇	一八九九年	一六、九五五
一八九〇年	一六、一三三	一九〇一年	一〇、八四四
一八九三年	三六、四四八	一九〇三年	四、三三〇
一八九四年	四六、六	一九〇四年	一〇、六〇〇
	二、六六六		

一八八九年ニハ奴隸解放ノ爲ニ苦メル北方諸
 州ニ於テ農業恐慌ヲ起シ一八九〇年ニハ經濟的
 及政治的擾亂ノ結果ブラジルニ於ケル取引價格
 ノ暴落ヲ來セリ爾來移民ノ數ハ烈シキ變動ヲ示
 スヲ見ル一八九一年ニ至リ著シク高位ニ上レル
 ハ之レ一方ニハアルゼンチンニ於ケル一般ノ狀
 態ガ不良ナルニ當リ同時ニ北米ニ於テモ移民ノ
 收容力ガ減退セルト他方ニハブラジルニ於テ新

ニ移民ノ保護ヲ大ニ勉メタルトニ起因スルモノナリ然ルニ内亂ノ結果再ビ逆襲ノ見舞フ所トナリテ爾來三年ノ間繼續シ從テコノ期間ハ移民ノ數モ亦減少セリ。今十九世紀ノ末ニ至ル迄ノ統計ヲ舉レバ次ノ如シ。

伊太利ヨ	南部伊太	伊太利ヨ	南部伊太
リブラジ	利ヨリ	リブラジ	利ヨリ
ルヘノ移	ラジルヘ	ルヘノ移	ラジルヘ
民	ノ移民	民	ノ移民
一八五五年	九六、九〇	一八五五年	六六、六五
一八七〇年	八〇、九六	一八七〇年	六六、六五
一八九〇年	二六、七四	一八九〇年	二七、四八
一九〇二年	八二、五五	一九〇二年	二七、四八

此表ニ依レバ最初三年間ハ高位ヲ示セルヲ見ルベシ此時ハ國內平和克復シテ大赦令ハ發布セラレ經濟狀態ハ一部ハ歐洲ニ於ケル好景氣ノ餘響ヲ受ケテ一八九七年十二月ニ至ル迄好況ヲ呈セリサレド秋ニ及デ内亂新ニ起リテ爾來三年間引續ケル商業恐慌ヲ來シ國立銀行ハ將ニ破産ニ瀕セントシテ紙幣ノ價格ハ絶エズ下落シ事實上

ノ賃銀ハ甚シク低下シ移民ニ對スル需要ハ減少セリ斯クシテ一九〇〇年ニ至ル迄事業界ハ悲境ニ沈淪シタリシガ此年ニ至リ遂ニ經濟恐慌ハ收マリ一般採礦業及金剛石ノ採掘ハ新ニ活氣ヲ呈スルニ至レリ從テ一九〇一年ノ移民ノ突然増加セルハ主トシテ之ガ結果ニシテ其他彼ノ伊太利ノ移民法モ亦良影響ヲ與ヘタルモノナリ然レドモ忽チ事業ノ滯滞ハ新ニ起リテ伊太利ヨリノ移民ハ再ビ減少セリ即チ次ノ如シ。

伊太利ヨ	南部伊太	伊太利ヨ	南部伊太
リブラジ	利ヨリ	リブラジ	利ヨリ
ルヘノ移	ラジルヘ	ルヘノ移	ラジルヘ
民	ノ移民	民	ノ移民
一九〇三年	四〇、四三	一九〇三年	二七、七〇
一九〇四年	一一、七四	一九〇四年	二七、七〇
一九〇六年	二七、八〇	一九〇六年	二七、七〇
一九〇八年	一五、五五	一九〇八年	二七、七〇

一九〇二年ニ於ケル移民ノ數ハ前年ノ半數以下ニ落チ爾來益々減少ノ勢ヲ持續セリ此時ニ當リ恰モアルゼンチン及合衆國ニ於テハ相前後シ

テ經濟界ハ一般ニ頗ル好況ヲ呈シ兩國ハ盛ニ歐洲ヨリノ移民ヲ吸收シテブラジルニ影響ヲ及ボセルノミナラズ此地ノ事業界ハ農作物ノ不作ト珈琲ノ恐慌ト財政上ノ困難トノ爲ニ不振ニ陥リシカバ移民ノ益々減少セルハ怪シムニ足ラザルナリ。

ブラジルニ就テ述ベタル前掲ノ各期間ヲ通ジテ特ニ南部伊太利ヨリノ移民ニ就テ觀察スル時ハ其増減ハ殆ド常ニ伊太利全國ヨリノ移民ノ増減ト相一致シ且ツ專ラブラジルニ於ケル狀態ノ變化ニ依テ左右セラル、コトヲ知ルベシサレド一八八八年一八九一年一八九五年一八九六年及一八九七年ニ於ケル移民ノ大増加ハブラジルニ對スル關係ノ古クシテ且ツ根柢ノ固キ彼ノ北部伊太利ノ力特ニ著大ナルコトハ之ヲ注意セザル可ラズ而シテ之ト同時ニ吾人ハ又如何ニ南部伊太利人ガ次第ニブラジルニ歸化シ行クカヲ窺フコトヲ得ベシ一八九八年以來ブラジルニ向ヘル

南部伊太利ヨリノ移民ハ伊太利全國ヨリノ移民ノ五〇「パーセント」ヲ占メタリシニ後次第ニ其割合ヲ増大シテ六六「パーセント」ヲ占ムルニ至レリコノ現象ハ南部伊太利ヨリノ一般移民ノ強大ナル増加ト其步調ヲ一ニスルモノナリ。

吾人ハ今茲ニ移住先タル合衆國アルゼンチン及ブラジルノ三國ヲ伊太利國民ニ對スル其誘引力ニ就テ互ニ比較スル時ハ合衆國ガ其力最モ強キコトヲ認メザルヲ得ズ之レ全ク同國ニ於テハ純粹ナル經濟的原因ガ何等妨害ヲ受クルコトナク完全ニ其效力ヲ現ハスコトヲ得ルガ故ナリ然ルニ南米ニ在テハ政治的狀態ガ圓滑ナラザルヲ以テ移住ノ目的ヲ果シ得ルコトハ確實トイフ可ラズ而シテコノ點ニ關シテハブラジルヲ以テアルゼンチンヨリモ一層然リトス。

吾人ノ研究ノ目的トスル所ハ如何ニ南部伊太利ヨリノ移住ノ運動ガ主トシテ米國ニ於ケル移住先ノ狀態ニ依テ支配セラル、モノナルカヲ示

サントスルニアリ而シテ上來屢々行ヘル比較ニ於テ明ニコノ現象ノ一般ニ存在スルコトヲ立證シタリ。

其他尙ホ多クノ副因アリテ伊太利國內ニ於テ移住ノ變動ニ影響ヲ及ボセルコトハ勿論之ヲ否定スベカラズ南部伊太利ハ専ラ農業國ニシテ其生産物ノ大部分ハ國內ニ於テ消費セラルコノ地方ハ工業ガ僅ニ其萌芽ヲ出シタルニ過ギザルヲ以テ現今ノ資本主義ハ未ダ此地ニ成立スルヲ得ズ從テ何等移住ニ對シテ影響ヲ及シ得ルモノニアラズカ、ル影響ハ寧ロ農産物ノ收穫ノ變動ヨリ來ルモノトナスベシ若シ斯ノ如キ影響ニシテ存在スル時ハ宜シク常ニ副因トシテ之ヲ數フベキモノナリ。(完結)